

山口県立山口博物館の学校・地域連携

— 博物館の教育資源を学校や地域へ —

山口県立山口博物館長期研修教員

中村考志、杉江喜寿、水石正幸、中村 孝

1. はじめに

研究の背景

山口県立山口博物館（以下 山口博物館と略）は、天文・地学・植物・動物・考古・歴史・理工の7部門で、33万点を超す貴重な学術資料を収蔵しており、専門的な知識や技能と高度な研究能力をもった学芸員が、資料の収集・保管、公開（展示）・教育、調査・研究等を行っている。

山口博物館では、10年前の平成16年から「博物館学校教育連携推進事業」を開始し、平成19年度からは改めて「博物館学校地域連携教育支援事業」（以下、博学地連携と略）として、学校だけでなく地域との連携も実践する事業展開を行っている。この事業は、学校及び地域関係機関と連携し、このような人的・物的に優れた教育資源を児童生徒の学校教育及び地域住民の生涯学習を進めるために有効に活用することを目的としている。

博物館の効果的な活用のためには、その優れた学術資料を活用した学習プログラムや教材の開発を行い、来館利用や出前授業等を通して博物館の利用促進を図ることが求められている。

この事業実施を通して研修を行うため、県内の学校から1年間の長期研修教員（通称MT：ミュージアムティチャー）が山口博物館に派遣された。当初は2名だったが、事業成果と研修効果が高いことから、平成18年度からは教頭を加えて3名に、平成25年度から小学校2名、中学校2名の計4名（うち1名は教頭）となっている。

本発表では、主に山口博物館と地域との関わりについて、長期研修教員としてこれまで研究、実践を重ねてきた事例を報告する。

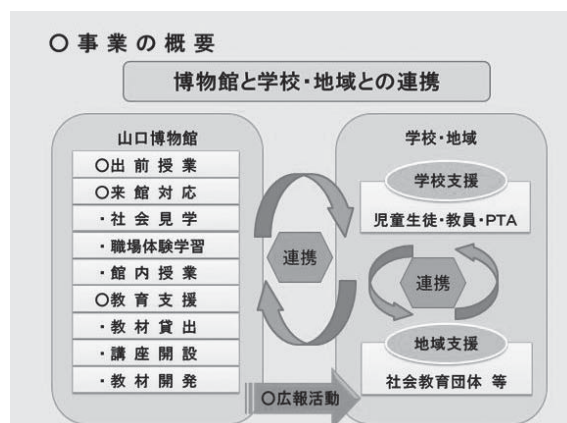


図1 事業の概要



図2 本物の化石にふれる

2. 研究の内容と成果

1) 学校へ出前授業

学校への出前授業では、学習指導要領に即した内容にプラスして「本物」や「貴重な資料」に触れるという学習プログラムの構築に努めた。

例えば、「化石レプリカづくり」の出前授業では単に化石レプリカの製作のみではなく、約 100 点

以上の本物の化石標本や、生きている化石といわれるカブトガニの標本などに実際に手に触れ観察する活動を通して学校等の授業では体験できない、より質の高い授業の提供をめざした。

出前授業を体験した児童生徒の感想から「実際に化石をさわられてよかった」「実験で考えて実際にやるのが楽しかった」「山口博物館に行ってみたいと思った」等の記述が得られたことは、大きな成果だと感じた。



図3 カブトガニ標本にふれる



図4 太陽望遠鏡で太陽観察



図5 昆虫標本を調べる



図6 協力してロボット操縦

2) 地域へ出前授業

出前授業は、学校教育だけでなく、PTA 主催の授業、公民館や子ども会などの地域団体の主催行事、科学の祭典や MT の OB が関わる地域行事などに対しても行われている。

ア PTA 主催の授業、公民館や子ども会などの地域団体の主催行事

このような場合の出前授業では、授業を受ける児童生徒の年齢層にばらつきがある場合が多く、学習というよりは科学や歴史に親しむという観点で取り組んできた。

イ 「青少年のための科学の祭典 in 岩国」(8月3日、山口県ふれあいパーク、岩国市)

ウ 「周南ゆめ物語」(12月8日、周南地場産業振興センター、周南市)

この行事は、山口県中部の理科教員が中心となって企画運営し、地域の企業の協力を得て行われる科学イベントである。山口博物館も後援しているため、私たち現役の MT だけでなく、これまでの MT の OB 達も県内各地から多数が駆けつけて協力している。



図7 PTA行事で保護者と（葉脈標本）



図8 公民館で子ども会（植輪）



図9 科学の祭典（ミニ博物館）



図10 周南ゆめ物語（天体展示）

3) 山口博物館の出前授業利用状況（学校・地域の利用状況より）

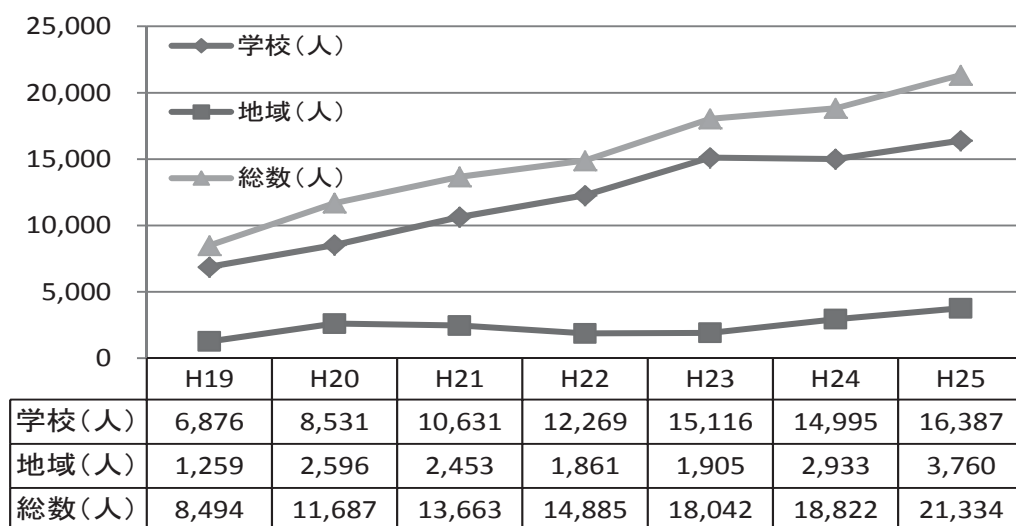


図11 出前授業の利用者数の推移

図11は、平成19年度から平成25年度（見込数）までの出前授業の利用者数の推移である。ただし、学校は小・中・高・特別支援学校等とし、地域は児童クラブ・子ども会・PTA・公民館・大学・その他社会教育関係団体として区別した。なお、図11の学校・地域の数には総数の内数であり、それら以外の数（教職員など）は含まれていない。

図 11 からわかるように出前授業の利用者数は年ごとに増加している。平成 25 年度で見ると、出前授業利用者数の約 80%が学校関係、約 20%が地域関係である。

4) 来館対応（社会見学、館内授業、職場体験学習）

ア 社会見学（展示説明や魅力ある展示環境整備）

博物館でワクワクするような体験をしてもらいたいとの思いから、入館前に見学のポイントやマナーの説明、利用団体の要望に応じたワークシートの作成や展示資料の説明、ミニ館内授業などを実施してきた。



図 12 ミニ館内授業（展示解説）

イ 職場体験学習

キャリア教育の一環として、二日間の日程で博物館の活動や学芸員の仕事について、体験を通して学ぶことができる学習プログラムを用意した。中学校の利用が多かったが、小学校や高等学校の利用もあった。

ウ 館内授業

館内の大型天体望遠鏡を使用した「天体教室」、視覚障害児を対象とした「自分の指のレプリカづくり」「骨格標本の観察」「屋外の植物観察」等、学芸員と連携して日頃扱えないような機器や貴重な学術資料を活用した館内授業を実施することで、児童生徒の探求心や学びの意欲を高め、博物館の魅力を発信することができた。

5) 教育支援

ア 教材貸出

学校授業や地域団体行事で使用される頭骨標本、化石標本、ロボットなどの資料・教材の貸し出しを行った。貸し出しの際に行う資料や教材の解説は、利用する学校教員や地域関係機関のスキルアップへつながった。

イ 教員向けの講座開設（各地域に出向いての講座など）

県内の教員を対象とした博物館一日体験研修の実施や、県内の各地域で博物館の活用を進めるために、各市町の小学校や中学校の理科教育研修会等で講座を開設した。博物館の活動や博物館のもつ教材・教具の紹介をすることによって、今後の博物館利用の具体的なイメージをもってもらえることができた。

ウ 教材開発（地域の特性や学校の授業の実態に応じた教材の開発など）

利用校からの要請により、その学校の周辺を流れる川のはたらきに注目した「流れる水のはたらき」の教材を開発した。また「ふりこのきまり」や、学習指導要領に即した「ものづくり」の新規教材を作成し授業実践するなど、日々研究に取り組んでいる。



図13 こう水を防ごう



図14 ふりこのきまり



図15 新しいものづくり

6) 地域に拡げる広報活動

博物館の活用方法や魅力を広く知ってもらうために、出前授業や各市町の校長会などで博物館の紹介をして、県内の各学校には博物館ガイドや事業報告書の配布をしている。また、「博物館だより」や「メールマガジン」をホームページで公開し、各学校にも配布してきた。

今年度は、さらに児童・生徒だけでなく県内のそれぞれの地域の方々をも対象にして、自然科学や歴史の話題を掘り起こし、山口県やそれぞれの地域の自然や歴史、科学や宇宙の素晴らしさなどを再認識してもらいたいという願いを込めて、「なっとくんの『なるほどなっとくニュース』」を5月から62号作成（12月末現在）し、ホームページでの公開や各学校への配信を行った。この「ニュース」は、県内の小中学校の約70%が掲示等で活用し、4校に1校が授業の参考資料や話題として活用している。また、博物館の学習コーナーに置いて来館者が持ち帰られるようにしている。（※「なっとくん」は、山口県内の子ども達に大人気の山口博物館のマスコットキャラクターである。）

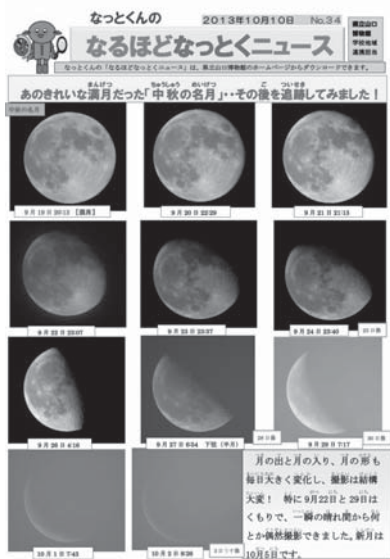


図16・図17 長期研修教員の取材に基づいた情報提供活動
なっとくんの「なるほどなっとくニュース」



図18 保護者向けにも展示



図19 「周南ゆめ物語」にて

3. おわりに

平成 19 年度から学校だけでなく、地域を対象とした出前授業も受け入れるように枠を拡げ、広報活動も積極的に行ってきた。その結果、図 11 で示した通り、年々出前授業の利用者数が増えている状況である。そのため以下のような課題が生じてきた。

- ・ 地域の子ども会等への出前授業は対象者の年齢層が幅広く多人数である場合が多く、均一な集団構成ではない。今後、幅広い要望に応えられるような学習プログラムの開発が必要である。
- ・ 地域の利用が増えるにしたがって、学校の教育課程に基づく出前授業との内容の重複や費用の負担増などが問題となってきている。特に費用の面では、出前授業の利用者数が年間 2 万人を超える状況の中で、学校での活動を含めて一部有償化にせざるを得なくなってきた。
- ・ ここ数年は、ほぼ毎日出前授業が続くような状況であり、学習プログラムの開発や教材作製・準備の時間が十分取れないのが実情である。今後は、研修時間の確保と出前授業の効率化を図っていく必要がある。

一方、来館者数は、社会見学の利用団体数・来館者数ともにやや減少傾向にある。そのために、社会見学と館内授業をセットにした企画など、受け入れに際しての提案を積極的に発信し、より多くの児童生徒に利用してもらえるようにしていきたい。また、利用したワークシートと引き替えに博物館オリジナルカード（通称：「なっとくんカード」）を配り始めたが、このようなカード 1 枚でも館内のワークシートの利用率は大幅に向上しており、今後の継続した取組を行うことで成果が期待できるものと考えている。

このような地道な取組や広報活動、そして「博物館学校地域連携教育支援事業」の活動をさらに充実させていくことで、山口博物館が学校や地域、県民の皆様に愛され、山口県の自然科学や歴史の学びの中核となるように工夫し、努力していきたいと考えている。

参考文献

- 小学校学習指導要領解説理科編，文部科学省（平成 20 年 8 月）
- 中学校学習指導要領解説理科編，文部科学省（平成 20 年 9 月）
- 山口県教育振興基本計画，山口県教育委員会（平成 25 年 10 月）



図 20 「なっとくん」